

2020年7月発行

茨木御堂 第272号



真宗大谷派



茨木別院

(輪番 高木 文善)

〒567-0817 茨木市別院町3-31
TEL (072) 622-2903
FAX (072) 625-9445

●法語カレンダー八月のことは

念仏もうすところに
立ちあがりいく力が
あたえられる

私などは真宗のお話をするとき、お念仏を申すということ
は「生きる力があたえられる」とか「生きいきと生きる力が
与えられる」とか、右のことばのように「立ち上がる力があ
たえられる」のですとよく言います。前後の説明が無くて、
この言葉だけを取り出して言ってみても何のことかさっぱ
りわかりませんね。何でそんなことになるのという疑問ばか
りが残るに違いありません。そこでその前後の説明を少しし
てみたいと思います。

真宗の教えを聴聞するとき、たびたび「真実」とか「まこ
と」という言葉が行き交います。真宗の「真」という文字が
「真実」を顕わすことばです。故に真宗におきましてはとり
わけ大切な文言であります。ところで私たちは、善い心の中
身として「真実心」とか「まことの心」に強い関心をおぼえ、
その心を追い求め、身に具えたいと常に願っているようであ
ります。その証拠に、自分としては少しの善意を発揮して良
いことをしたとしても、すぐに自分を褒め、人にも自慢して
しまいがちであります。

しかし、真宗の人間観、つまり親鸞聖人が人間というもの
をどのようにおさえていらつしやるかというところ、人間には
「真実」「まこと」のころなど微塵もないと言いきつてお
られるのです。では、「真実」「まこと」の心はどこにあるの
かと言え、それはすべて一切合切阿彌陀さまの側にある。
「真実」「まこと」はそれそのものが阿彌陀如来の持ち物で
あり、阿彌陀さまのお心なのであります。それならば「真実」
「まこと」の心など微塵もないといわれる私たちはいった
い何者なのか。

さて、どう考えてみても私たちは都合よく生きることを日
常としています。つまり私たちは、いかに都合よく生きてい

くかというところに立つしかできないのです。この「都合よ
く生きる」ことがすべての人に備わっている本性なのです。
しかし都合よく生きようとすると、都合よく生きられないこ
とばかりが次からつぎへと私を襲ってきます。その時、頭を
もたげてくるものが(実はこれが私たちの側にある持ち物な
のですが)、怒りや腹立ち、妬や嫉がこの身と心を煩わしま
す。これを「煩惱」と教えられています。そして煩惱に引き
ずりまわされ、煩惱にひっかきまわされて、「真実」をまっ
たく見えなくされている人のことを凡夫というのです。煩惱
具足の凡夫ともいわれます。

さて、話は前にもどりますが、「真実」「まこと」はほとけ
さまのおころ、人には「真実」「まこと」は微塵もない。そ
れなら「真実」「まこと」は私たちとは全く無縁のもの、ま
ったく触れられないものなのでしょうか。教えの中には「慚
愧」ということがあります。慚愧とは、「都合よく生きようと
する」私、つまり煩惱に引きずりまわされて、迷いに迷って
苦悩しているこの私に、誠に「身勝手」(不真実)であったと、
ハッと目を醒されること(これを慚愧という)があるので、
が、私に目を醒まさせるはたらきが、仏さまのおころ(「真
実」「まこと」)なのであります。そう信じていることができるよ
うになるのは、仏さまの教えを聞くこと(聞法)を通す以外
にはないのです。そんな時、身勝手な不真実極まりないこの
私が、今ここに間違いなく生きていないではないか。この事実
は一体何か?それはこの私を「生きよ!」と支えていてくれ
る人がいる。このいのちを生かしているものがある。生きよ
と背中を押しているものがある。それを自覚した時、この怠
惰な私を立ち上げらせるのであります。

南無阿彌陀仏(輪番)

茨木別院関連ホームページ

茨木別院 → ibarakibetsuin.or.jp

いばらき大谷学園 → ibarakibetsuin.or.jp/kids/

真宗教団連合ホームページ

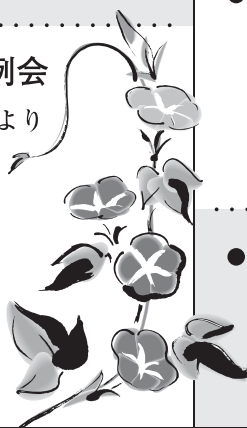
<http://www.shin.gr.jp/>

真宗教団連合

検索

茨木別院 行事ご案内

7月	8月
●教如上人ご命日・同朋会（どうぼうかい） 日 時 5日（日）午後1時半より 会 場 別院会館 講 師 加藤 恵氏	●教如上人ご命日・同朋会（どうぼうかい） 日 時 5日（水） 午後1時半より 会 場 別院会館 講 師 加藤 恵氏
●暁天講座 日 時 22日（水） 午前7時頃より勤行 23日（木） 引き続きご法話 会 場 別院本堂 講 師 藤井 善隆氏	●お盆墓法要 日 時 7日（金） 午前10時より 会 場 別院会館
●親鸞聖人ご命日・婦人会例会 日 時 28日（火） 午後1時半より 会 場 別院会館 講 師 茨木別院輪番	●盂蘭盆会・夏の御文 日 時 13日（木） 午後1時半より 14日（金） 3時頃まで 会 場 別院本堂 講 師 茨木別院輪番・列座
	●親鸞聖人ご命日・婦人会例会 日 時 28日（金） 午後1時半より 会 場 別院会館 講 師 茨木別院輪番



＊7月・8月・9月の みほとけの歌の会はお休みです。

講師

茨木別院輪番・列座

会場

別院本堂

日時

八月十三日（木）・十四日（金）
午後一時半より

盂蘭盆会・夏の御文

会場

別院会館

日時

八月七日（金） 午前十時より

お盆墓法要

パンと牛乳を（株式会社）京仏具小堀様の
協賛でご用意しております。

■講師 藤井 善隆氏（即應寺 前住職）

■講題 「真宗の救い」

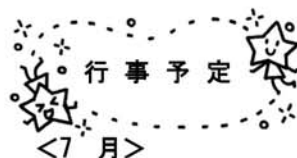
午前七時頃より勤行、引き続きご法話

■日時 七月二十二日（水）
二十三日（木）

暁天講座



新型コロナウイルス感染症の渦中で始まった2020年度ですが、緊急事態宣言が解除され、先月あたりからようやく園も「通常」を取り戻しつつあります。しかし、感染のリスクを考慮する中で予定していた行事を中止しなければならないことが多く、子どもたちにとっては本当に残念なこととなりました。今後は「新しい生活様式」を子どもたちと共にしっかりと身に付け、励行していくことで、年度の後半には子どもたちと共に様々な行事を楽しめるようになればと願っています。皆様もどうぞお気を付け下さい。



<7 月>

2日(木) セタまつり
20日(月) 終業式
21日(火)・22日(水) スイカ割り

<8 月>

14日(金)~16日(日)
盆休園(保育協力日)



見学会のお知らせ

いばらき大谷学園では見学会を開催いたします。いずれも予約が必要です。参加希望の方は下記にお電話下さい。

《1 号》 定員：2 組

7月6日(月)~7月31日(金) 10:00~11:00

※園の行事日、土、日、祝は除く

《2号・3号》 定員：1 組

7月1日(水)より毎日実施 10:00~11:00

※園の行事日、土、日、祝は除く

☎072-624-0203 (担当：久保、廣戸)

子どもたちに人気の献立紹介 白菜とリンゴのサラダ

<材料> (大人4人分)

りんご 1/2 個
白菜 1/8 個
人参 1 本
きゅうり 1 本
コーン 80 グラム
(缶詰の粒コーンでOK)

(調味料)

薄口醤油 小さじ1
酢 小さじ1
塩 ひとつまみ
コショウ 少々
オリーブ油 大さじ1

<作り方>

- ①人参を千切りにしてゆでる。
- ②白菜をざく切りにして塩ゆでする。
- ③きゅうりは薄く輪切りにし塩もみする。
- ④りんごは短冊切りにし、塩水につける。
- ⑤ ①~③をキッチンペーパー等で絞る
- ⑥ ⑤にりんごとコーンを入れ混ぜる。
- ⑦調味料で味付けする。





園長の一言

「パンダは何を食べるの?」という子どもの質問には、ほとんどの親は知っているので、正しい答えをしてあげられます。「それは笹の葉だよ」。運よく笹の葉の実物があれば見せてあげられますし、なくても図鑑等で確かめることにより学習することができます。

しかし、「どうしてパンダは笹の葉をたべるの?」と質問されてくると、これには容易に答えられません。これは自然の法則を問うているのですから、親も真剣に「わからないけれど、いっしょに考えようか」と応じてあげるべきでしょう。自然の法則は単純な方法ではわかるものではないことを子どもと共に理解し、どうしてもわかりたい意欲を共に起こしたいものです。

子どもが発する「なぜ?」「どうして?」の言葉は、親は随分たくさん浴びせられてきたし、答えに瀕したことも多々あったことでしょう。以前この誌面で紹介しましたノーベル賞受賞者の吉野彰さんが、さかんにおっしゃったのが「好奇心をもつ」ということでありました。好奇心とは辞書によると、「自分の知らないことや珍しい事、面白い事などに興味を持ち、積極的に知ろうとする姿勢である」と示されています。「どうしてパンダは笹の葉を食べるの?」は、まさにこの好奇心であります。子どもは疑問を投げかけるだけではなく、ジッと何かを見て(観察して)いたり、周りの大人の話をそばだててジッと聞いていたりします。好奇心が旺盛なのでしょう。これはその瞬間、このことがどうしても知りたいのですというサインです。私たち周りにいる大人は、このサインを見逃さずその子が知りたいと思うことを、すぐに答えを出すのではなく、どうしてもわかりたい

意欲の手助けをする使命があると思うのです。

人はだれしもすぐに答えを求めようとしています。子どもの「なぜ?」は答えを求めるのも大切ですが、答えを求めて追及する過程が大切なのです。その大切さはいくつかあります。

一つには、先にも自然の法則を問うということをいいますが、自然の法則を子どもと共に知ろうとしていく作業は、科学的態度を身に着けようとすることになります。それは自然を征服する態度ではなくて、自然を畏敬する態度であります。つまり自然をおそれ敬う態度なのであります。自然の法則のみことさの前では無意識にひれ伏してしまふ、そういう態度を養うことに通じます。

もう一つには、「なぜ?」とは言いかえるなら「不思議さ」であります。常に自分を取り巻くさまざまな環境・事物・事象に「不思議さ」を発見する「力」を培う。そして「自分」という存在への豊かな気づきへとつなげ、いずれ自分自身の「不思議さ」に気づいていく「力・姿勢」へと涵養する。(富岡量秀著「真宗保育をデザインする」の一説より。)

よくよく考えてみると、世のなかのことがらは「不思議」でいっぱいです。大人になるほど不思議を不思議と感じない日常を多く過ごしていますが、子どもは「不思議」いっぱいなのでしょう。子どもにとって「不思議さの発見」はものを知っていく根源でもありますが、自然を畏敬する態度を養い、自分自身の「不思議さ」に気づくとは、「人とは」とか「生きる」ことへの深い思索をさせるのです。

園長(高本文善)

教如上人御命日・同朋会

信心同一——共に道を求めて——

新型コロナウイルス感染症の流行により、緊急事態宣言が発令され、自粛要請されたその直後、自粛の要請に応じない、或いは応じられない個人や商店に対して私的に取り締まろうとする人のことを指して、自粛警察”なる言葉が出現しました。また、感染症を封じ込めるためにワンチームとなって乗り越えようと、”ワンチーム”という言葉が世間で飛び交っています。ワンチームという言葉は昨年のラグビーワールドカップ日本代表のチームスローガンです。流行語大賞にもなり、第一生命サラリーマン川柳で『ワンチーム』にわかに課長が言い始め」が百選に入賞しました。「僕はワンチームというキーワードを出していましたが、ワンチームという言葉だけでワンチームになることは絶対ないと思います」代表・堀江選手という言葉です。海外出身選手も多く、四年間、猛練習と生活の場を共にするなか、生まれてきた言葉のようです。

考え方・能力・行動・年齢・出身、一人ひとり違うけれど、場を共にしようという表現する言葉なのか、組織内の統制と秩序維持のためだけに意図して発せられた言葉なのか、後者であれば”同調圧力”を感じてしまいます。私たちは、不安を感じると言動を同じくひとつにすることが不安解消になるものと考え、同調しない人に非難の眼差しを向けたら、また、一方では、差異を分別して殊更に差別化・序列化することで集団を安定させ、そのことが安心であると思い込んでいる一面があるようです。いずれにせよ無自覚な言動は、他を傷つけ自らをも損ね大切なつながりを分断してしまうのかもしれない。

では、「ひとつ・同一」ということを、どこで認めあえるのでしょうか。お聖教に訪ねたいと思います。

親鸞聖人は、二十九歳の時、吉水(東山)の法然(源空)上人を訪ね本願念仏の教えに出遇われます。法然上人のもとには、三百人以上の門弟がおられたと伝えられます。早くに学ばれた兄弟弟子も大勢おられました。あるとき親鸞聖人は吉水草庵で

善信(親鸞聖人)が信心も、聖人(法然上人)の御信心もひとつなり

と表明されました。そのことを聞き、高弟といわれた勢観房、念仏房らが「(比叡山で智慧第一といわれた、師)法然上人の御信心と(最近、吉水に入った)善信房の信心がひとつであるはずがなろう」と言われましたので、親鸞聖人は「法然上人の学識や才覚は、広く深いものです。その点で同じと言うのならば誤りです。往生の信心において異なることはない、ただひとつなのです」と返答されました。しかし、「どうしてそのようなことがあるのか」と疑いと非難が尽きないので、法然上人の御前にて、どちらが正しく間違っているかを決めることになりました。この子細をお聞きになられた法然上人は、

源空が信心も、如来よりたまわたりたる信心なり。

善信房の信心も如来よりたまわらせたまいたる信心なり。

されば、ただひとつなり。

と仰せになりました。「信心同一」であると。

私はこの『歎異抄』後序に書かれてあるやりとりをとおして、阿弥陀如来よりたまわる信心。他力の信心においてただひとつ、ということに異議を唱えた兄弟子らを一方的に非難できないのです。なぜなら、我を主体とし我の理性を根拠とし他と比較し、信心さえも思慮分別する眼が私にもあるように思うからです。そんな私が問われているのです。歎異とは、異議を言挙げし他を攻撃排除することではない、本當の姿に目覚めよ！との如来の呼びかけに背いてきた、この私が歎かれていたのだと。

著者の唯円房は後学(他ならぬ私たち)を案じ、異議を悲歎し、正しく、親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えに聞き相續して欲しいと願われ、聖人に直接面授した最後の門侶としての一人の責任を痛切に感じられ「なくなふでをそめてしる」されました。それが『歎異抄』であります。

さて、茨木別院教如上人御命日・同朋会は、七月五日より再開されます。皆様のご参加をお待ちしております。『歎異抄』に学んでまいりましょう。共に道を求めて。

(同朋会講師 加藤 恵)

「みほとけの歌の会」

新型コロナウイルス感染予防のため
九月までの活動を休会いたします。ご
理解ご協力よろしくお願いいたします。

「教如上人御命日・同朋会」

新型コロナウイルス感染予防のためし
らく休会しておりましたが、七月より再開
いたします。感染予防対策をとりつつ開催
していきます。引き続きみなさまの参加お
待ちしております。

【開催日】

毎月五日 午後一時半より開催

【講師】

十一組 教圓寺住職 加藤恵氏

親鸞聖人御命日

婦人会例会

七月二十八日より、婦人会例会を再開
いたします。感染予防対策をとりつつ開
催していきます。

【開催日】

毎月二十八日 午後一時半よりお勤め
後、茨木別院輪番法話

敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を
表します。(敬称略)

記

法名 慈心院釋尼常和

俗名 北川 和子

七十四歳

法名 釋尼慶楽

俗名 溝畑 慶子

九十三歳

法名 釋尼常和

俗名 判田 和子

九十一歳

株式会社 花 廣

— 生花・供花・けいこ花 —

茨木市大手町一二一八

☎(〇七二)六二二一四〇二

編集後記

緊急事態宣言も解除され、今までの日常
がある程度戻ってきました。

とは言え、マスクをずっと着けていたり、
事あるごとにアルコールで消毒したりと今
までになかった生活習慣が始まりました。
皆様に少しでも安心してお参りいただける
環境作りを考えていきます。

岡崎 康祐

「新しい生活様式」のもと徐々に新たな日
常へと動き出しました。「今までは・・・」
と過去に囚われず、「これから・・・」と
柔軟な気持ちで出来る形(方法)を考えて
いく必要があるのではないのでしょうか。

墨林 尚顕

七月より同朋会、婦人会が再開されます。
これまで参加いただいていた方だけでなく、
この機会に新しく参加される方もお待ちしております。
一人でも多くの方に聴聞して
いただければと思います。

竹内 明人